

第5学年 音楽科学習指導案

対 象 5年4組 男16名, 女18名 計34名
指導者 小原 育世

添削蛭川

1 題材名 歌いつごう 日本の歌

教材名 主教材「ちいさい秋みつけた」サトウハチロー作詞 中田喜直作曲 (教育芸術社音楽 5)
補助教材「いいね ふるさと」駒井 瞭作詞 小林 明作曲 (滝沢市愛唱歌)

2 題材について

(1) 児童について

本題材にかかわる学習内容について、レディネス及び事前アンケートは次のような結果となった。

文部省唱歌「こいのぼり」を、情景に合わせた歌い方で独唱することができた。 (1学期)	情景に合わせた語感, 抑揚を工夫して歌うことができる	44.1%	(15人)
	情景を理解して歌う	55.9%	(19人)
歌詞の内容, 曲想を感じ取って思いや意図をもって歌おうと思う。 (9月5日時点での調査)	とても思う	26.5%	(9人)
	どちらかというと思う	52.9%	(18人)
	どちらかというと思わない	11.8%	(4人)
	思わない	5.9%	(2人)
	無答	2.9%	(1人)

この結果から、歌詞の内容や曲想を感じ取り、思いや意図をもって表現するという学習の経験値が充分とはいえないことが明らかになった。

そのため、本題材では、一人一人がどのように歌うかについて歌詞や曲想から表現を工夫する学習を行う。この学習により、様々な楽曲に自らの思いや意図をもって取り組む姿勢を育てたいと考え、この題材を設定した。

指導に当たっては、演奏を録音し、「うかっこアルバム2018」と名付けたCDを作成することで、「歌いつごう」という目的意識、相手意識をもって学習に向かえるようにしていく。

(2) 教材について

「ちいさい秋みつけた」(サトウハチロー作詞, 中田喜直作曲)は、1955年に発表され、やがてレコード大賞童謡賞を受賞した。情景を思い浮かべた表現を工夫する学習に相応しい楽曲であると考えられる。

「いいね ふるさと」は、滝沢市の愛唱歌として歌われている。郷土愛に満ちた歌詞、伸び伸びとした旋律が魅力的な曲である。市制に伴い一部歌詞が変更になったものの、音源に反映されていないので、新たに録音したい。

本教材の中心となる指導事項として、【A 表現(歌唱)】のア「歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。」、ウ「呼吸及び発音の仕方を工夫して、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌うこと。」を取り上げる。この学習を通し、ウ 中学校学習指導要領【表現(1) ア】歌唱表現にかかわる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫することにつながる能力を培っていきたい。また、共通事項として、音楽を形づくっている要素のうち(ア)旋律、(イ)反復に気付き、歌唱表現に生かす。

(3) 指導について

本題材では、日本の歌を思いや意図、歌詞の意味を踏まえて、表現の工夫をして歌うことをねらいとする。既習である鑑賞「詩と音楽を味わおう『まちぼうけ』」や続けて取り組む「こころのうた」（共通教材）と関連を図りながら指導していく。旋律と言葉とのかかわり、1番から3番までの歌詞、旋律の反復と変化に気付かせながら、歌唱表現にどのように生かしていくか、子どもに考えさせる。そして、考えを交流し、歌い重ねることで表現の深化を実現する。本題材の学習を通し児童が日本語の語感を生かした曲の魅力に気付くようにしたい。

3 題材の目標

(1) 音楽への関心・意欲・態度

日本の歌の歌唱表現に興味・関心をもち、歌唱の学習に主体的に取り組もうとする。

(2) 音楽表現の創意工夫

音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。

(3) 音楽表現の技能

歌詞の内容、曲想を生かして歌ったり、自然で無理のない響きのある声で歌ったりする。

4 指導と評価の計画

時	学習内容	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
小3・4	歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌う。	歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に取り組んでいる。	音楽を形づくっている要素が生み出すよさや面白さを感じ取り、表現を工夫している。	呼吸及び発音の仕方に気を付け、曲想にふさわしい自然で無理のない歌い方で歌っている。
1	「いいね ふるさと」の歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う。	歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取って歌っている。	呼吸や発声を意識して、歌詞の内容、曲想を生かした表現で歌っている。
2	「ちいさい秋みつけた」の範唱を聴き、歌詞や旋律の特徴をとらえて歌う。	歌詞や旋律の特徴をとらえて歌おうとしている。	歌詞の内容や旋律の特徴をとらえて歌っている。	歌詞の内容を生かし、響きのある声で歌っている。
3 【本時】	「ちいさい秋みつけた」を、歌詞の特徴、曲の構成に気付き、自分なりの思いや意図をこめて歌う。	歌詞の特徴や旋律の特徴をとらえ、自分なりの歌唱表現に主体的に取り組もうとしている。	歌詞の内容、曲想などを生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつ。	歌詞の特徴や旋律の特徴を生かすために、語感を生かした言葉の抑揚や強弱を工夫して歌う。
4	「うかっこアルバム2018」のレコーディングを行う。	歌詞の内容、特徴、曲想を生かした表現で歌おうとしている。		
中1	歌詞の内容や曲想、曲種に応じた発声により、言葉の表現に気を付けて歌う。	歌詞の内容や曲想、曲種に応じた発声や言葉の表現、声部の役割と全体の響きに関心をもち、歌唱や合唱の表現をすることに意欲的である。	歌詞の意味、背景にある情景や心情、歌詞の構成を感じ取り、自己のイメージや感情を膨らませて歌唱表現を工夫している。	歌詞の意味、背景にある情景や心情、歌詞の構成に気を付け、自己のイメージや感情を膨らませた歌唱表現ができる。 言葉の抑揚、アクセント、リズム、語感による特性を生かした歌唱表現ができる。

5 本時の指導

(1) 目標

「ちいさい秋みつけた」を、歌詞の反復や、旋律の特徴に気付いて、情景を思い浮かべながら歌うことができる。 【旋律、反復】

(2) 評価規準

評価の観点	評価規準
音楽への関心・意欲・態度	歌詞の特徴、旋律の特徴をとらえ、自分なりの歌唱表現に主体的に取り組もうとしている。
音楽表現の技能	「ちいさい秋みつけた」を、歌詞の特徴、曲の構成に気づき、反復する言葉の抑揚や語感、ふさわしい響きの声で歌っている。

(3) 展開

段階	学 習 活 動	●指導上の留意点 ◎評価
導入 5分	1 前時の想起	● 旋律、歌詞の示す情景を確認する。
	2 課題の確認	
「ちいさい秋みつけた」を、歌詞や旋律の特徴を生かして歌おう。		
展開 33分	3 課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> ● 特に、「だれかさん」「小さい秋」という言葉に着目させる。 ● 3回繰り返す部分は強調であることを確認する。 ● 強弱記号、文字の大小、曲線など、自分の表現の構想をシートに表す。交互唱で歌いながら考えさせる。 ◎ 歌詞の内容、曲想などを生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(ワークシート) ● 記入したシートをもとに拡大譜に構想を表し、個人の思いや意図、歌唱と全体での歌唱表現をつなげる。練習の過程では、必要に応じて体の動きを取り入れる。 ● お互いの思いや意図の共通点、相違点をとらえつつ、より聴き手に伝わる歌を目指させる。 ◎ 「ちいさい秋みつけた」を、歌詞の特徴、曲の構成に気づき、思いや意図をこめて歌っている。(演奏聴取) ● 強弱、反復、フレーズのとらえなどが有効であると実感させる。
	4 まとめ	
<ul style="list-style-type: none"> ・全体でまとめの演奏をする。 		

終末 5分	5 振り返り	● 振り返りを記入させ、交流させる。
	<p>【振り返り 例】</p> <p>「ちいさい秋みつけた」の、歌詞の示す情景を感じ取り、歌詞や旋律の反復、旋律の抑揚を表現する工夫ができた。友だちの考えた構想で歌って見たら、また味わいが違っていた。みんなで歌うことで表現への関心が深まった。</p>	
	6 次時の確認	● 「うかっこアルバム 2018」として録音することを確認する。

(4) 板書計画

「ちいさい秋みつけた」を、歌詞や旋律の特徴を生かして歌おう。

縦書きの歌詞

児童の譜例 A

児童の譜例 B

児童の譜例 C